

# Tea Times

3  
NOV 2002

特集

## お茶の水女子大学の行方

— すべての女性の望みのために —

本田 和子 学長

3



<お茶の水女子大学オープンキャンパス>  
生活科学部を紹介する本間学部長



オープンキャンパス（学長との懇談会）  
本田学長のお話しに熱心に聞きいる見学者



2002年8月25日アフガニスタン教育省にて  
ナディール教員養成局長と調査団

### 世界的研究教育拠点形成

### 「21世紀COEプログラム」の「人文科学」分野で採択される！

### 拠点プロジェクト名 “誕生から死までの人間発達科学”

#### 記事

表紙・目次	1	アフガニスタン支援コンソーシアム	6
特集 お茶の水女子大学の行方	2	オープンキャンパス	6
21世紀COEプログラム	2	研究室紹介（比較社会文化学専攻）	7
理学部紹介	3	コア・クラスター／ジェンダー系	8
生活環境研究センター研究室紹介	4	学年歴・編集後記	8
名誉博士号をいただいて	5		

**特集**

**お茶の水女子大学の行方…③**  
—すべての女性の望みの実現のために—

本田 和子 学長



法人化されたとは言い、国費で措置される国立大学は、タックスペイヤーたる国民に対して平易で簡明な説明責任を求められ、国民と社会のニーズをいかにして吸い上げ、他と異なるどのような特色においてそれらのニーズに応え、国民と社会に貢献することが出来るかを、自らに問い、他に向けて説明しつつ、その責を果たすべく努力し続けねばならないのである。

本学は、前号、前々号の本誌で宣言したように、わが国最初の女子高等教育機関の伝統を踏まえて、女性の成長支援と資質能力の十全な開発を目標に掲げ、女子大学の道を選択しようとしている。学ぶ意欲に富み、指導的立場で世に立とうとする女性たちのために、より相応しい教育環境を提供しようとするのである。

小規模女子大の不利を承知の上で、あってその道を選ぶことになった経緯はおりに触れて述べてはきたが、重ねて繰り返すなら、本学を、いまを生きるすべての女性

たちにとつての「真摯な夢の実現の場」として機能させたいと願うからに他ならない。一七七年の本学の歴史が物語るように、創設以来の本学は、若い女性たちの学びへの願いと自己向上の夢に応えるべく惜しみない努力を続けてきたのだが、その営みの対象を、老若を問わず、また、国の内外を問わずとせず、「すべての女性」のために広げることこそが本学の今後の選択なのである。

「女性支援」を中心におき、「すべての女性」を視野に入れたことで、本学は、従来にまして、教育と研究以外にも新たな使命を担わざるを得なくなった。なぜなら、従来、女性たちは、男性と異なるライフスタイルの特異さと、それに起因する社会的不条理も災いして、自己実現の十分な機会を与えられぬままに、資質能力の十全な開発を妨げられることが稀ではなかった。その端的な現れが、妊娠や出産に由来する活動の休止であり、その後の社会復帰の困難さと結果としてのリタイアであろう。それら身体的差異に起因する当然の現象が、女性にとつて格別の不利益として結果しているたとすれば、その不利益を軽減するための営みも、困難に直面した女性たちへの援助も、いずれも「女性支援」の具体的内容として今後の本学の目標と計画のなかに位置づけられねばならないのである。

産声を上げたばかりの学内保育施設も、ささやかながらその実現の一例である。男女を問わず、若い夫婦が育児と学業を両立

させることなど、本来は、珍しくもない日常的営為である筈であろうに、それが大変な困難事であったとは…。「女性支援」を、女子大学の自覚的目標に掲げたとき、私どもの視界には、当たり前のことが当たり前ではなかつた従来の大学の仕組みが、改善を要する事態として改めて浮かび上がってきたのであった。

**世界的研究教育拠点形成のための重点的支援**

「二十一世紀COEプログラム」採択される!

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程人間発達科学専攻(拠点リーダー)

研究実施スケジュール				
問題提起型シンポジウム	戦略研究型シンポジウム	中間報告シンポジウム	研究集約型シンポジウム	診断と提言シンポジウム
調査地点の抽出 調査対象者の抽出 質問紙の選択と作成	質問紙調査の実施 インタビューの実施 行動データの抽出	データ分析 個別モデルの構築 資料収集の継続 中間報告書の作成	質問紙調査の実施 インタビューの実施 シミュレーション実験 資料の分析と診断 二次調査・実験の準備	データ分析と診断 総合モデルの構築 二次調査・実験の実施と分析 診断と提言
1年	2年	3年	4年	5年
パイロット研究の開始 調査・実験の企画	資料収集 一次調査・実験の実施と分析	中間報告書の作成 データベースの構築と公開	資料の分析と診断 二次調査・実験の準備	二次調査・実験の実施と分析 診断と提言
www.ocha.ac.jp (「www」を「http://」で置き換えてください。)	ホームページ (「詳細は、大学ホームページをご覧ください。')	科学分野「誕生から死まで人間発達科学」が採択されました。	「二十一世紀COEプログラム」(「人文科学分野」誕生から死まで人間発達科学)が採択されました。	「二十一世紀COEプログラム」(「人文科学分野」誕生から死まで人間発達科学)が採択されました。

## 理学部紹介

理学部長 室伏 きみ子

## 理学部は好奇心の花園

以前、学園便りにも書いたのですが、理学部は「好奇心の花園」だと、私は思っています。教育熱心な先生方、研究の虫のような先生方、そして、若くて柔軟な頭脳に沢山ものを吸収しようとしている若い学生さん達が集って、大いに好奇心と創造力を働かせ、学園の花を咲かせようとしている場所が、私たちの理学部なのです。

本学の理学部がどんな構成になっているかなどという情報は、「大学案内」に詳しく述べられていますので、是非そちらをご覧ください。先生方の研究や教育の内容については、「大学案内」や「大学院案内」、あるいはホームページに説明がありますが、もっと興味がある方は、是非理学部の先生方の研究室を訪ねて下さい。きっと先生方は喜んで、皆さんの訪問をお迎えするでしょう。

ここでは、あまり知られていない理学部の一面をご紹介します。私たちは、幾つかの学部独自の、或いは理学部が中心となった、若い研究者・教育者の支援や社会貢献の試みを行っています。例えば、本学の若手研究者（助手、大学院生、研究生等）を対象にした奨学金があります。「保井・黒田奨学金」と名付けられたこの奨学金は、日本初の女性博士である保井コノ先生（生物学者）と、保井先生と並んで日本初の女性

黒田 チカ博士  
(1884~1968)湯浅 年子博士  
(1909~1980)保井 コノ博士  
(1880~1971)

大学教授になられた黒田チカ先生（化学）を記念して作られたもので、毎年一名程度の優秀な若手女性研究者に授与されています。また卒業生を含む若手研究者を対象とした「湯浅年子記念特別研究員奨学金」は、第二次大戦をはさんでフランスの研究所でイレーヌ・ジョリオ・キュリー夫妻と共に原子物理学研究と日仏研究者の橋渡しに生涯を傾けた湯浅年子先生（物理学）を記念して作られたもので、受賞者には半年間のフランス留学のご褒美まで付いています。

これまで数多くの研究者・教育者を輩出したお茶の水の理学部が、世界に誇る先輩達を記念して作られたこれらの奨学金は、研究を志す若い人々を励まし、その世界的な活躍を応援しているのです。

理学部では、社会貢献の一環として、今問題になっている「理科離れ」に対応して子ども達に本当に面白い「理科」を知って貰いたいとの思いから、現職教員や子ども達のための体験学習も盛んに行っています。主に卒業

生のためのフォーラムや講習会も開かれ、要請があれば理学部の先生方が全国の高校に出かけて行って、先端的な科学研究のお話をすること（出前授業と呼んでいます）も実施しています。毎年三月に行われる「お茶の水博士の体験授業」は、講演、実習、研究室公開、パネル展示などで、理学部の教育・研究を広く公開しており、今年度も楽しい体験授業を実施するために、委員の先生方がアイデアを練っています。

私たちはこれからもずっと、「豊かな知性を身につけ、状況を的確に把握して、正しい判断が出来る人材」を育て、「リーダーとして活躍できる女性」を作るための努力を続けたいと考えています。そして、世界の各地に、お茶の水から育った美しい好奇心の花を沢山咲かせたいと考えています。



(大学ページ <http://www.ocha.ac.jp/>)  
(理学部ページ <http://www.s.cc.ocha.ac.jp/>)

## 研究室紹介

第一研究室 近藤 和雄教授

### 生活環境研究センター(研究室)紹介

近年、私たちの生活を取りまく環境(衣・食・住)は、著しい変貌を遂げ、今もなお変化を続けようとしています。この衣食住を主体にしている生活環境は、人の生命活動の根幹であり、人が身体面でも、精神面でも健康的な生活を送る上で密接に関連して、このような研究が必要とされている事は言うまでもありません。

生活環境研究センターは、こうした社会的状況を先取りする形で、お茶の水女子大学の中で最も古いセンターとして、昭和五五年に設立されました。設立当時の四部門体制が、時代と共に姿を少しずつ変化させながら現在に至っています。

これまでの生活環境研究センターは、環境ホルモンなどに手を伸ばしながらも、人数などの面から食環境、特にビタミン研究を中心に成果を上げてきたことは周知の事実です。日本の栄養学の学会の中で最大規模の日本栄養・食糧学会総会の会頭をここ二〇年余りのうちに二回も、生活環境研究センターの初代センター長の福場博保先生と二代目センター長の五十嵐脩先生が勤められた事は、栄養学会の中で、生活環境研究センターが生活科学部の中の食物学講座と共に中心的な役割を果たしていたかの証でもあります。こうした伝統をもつセン

ターの一翼を担う事は、かなりの重荷なのですが、幸いな事に時代は、栄養不足から栄養過剰へとかわり、食環境に関する考え方も、従来の栄養素を中心とした考え方から、ここ一〇年前あたりから人の健康維持、疾病予防を念頭においた食の機能面へと、私の専門分野の医学領域に大きくシフトしてきました。

そこで私の研究室では、健康維持、疾病(特に動脈硬化性疾患)の一次予防のための食環境の構築を念頭において研究をすすめることにしました。

赤ワイン、ココア・チョコレートに始まったポリフェノールなどの抗酸化物のLDL被酸化能を指標にした抗酸化作用の探求は研究室の主要なテーマの一つですが、現在修士課程の二年生を中心に、桜井智香君は、ブランドー、ウイスキー、日本酒の抗酸化作用とレモンポリフェノールの抗酸化作用、田子元美君は、緑茶などの茶類の抗酸化作用、高橋理恵君は大豆に含まれるイソフラボンなどの抗酸化作用を試験管レベルから人を対象にした負荷試験も含めて検討しています。五十嵐脩先生から引き継いだビタミンEの研究は、非常勤講師を勤めた清瀬千佳子さんと博士課程三年の斎藤尚子君、同一年の宇都春美君、修士課程一年の谷真理子君が行っており、ビタミンEの利尿という新しい機能を見出し、研究に従事しています。同三年の神山真澄君は、抗酸化作用を平滑筋細胞、腎メサングウム細胞を用いた細胞レベルからの検討を行い、同二年のベトナムの小児科医のThu先生は、ベトナムの野菜の抗酸化能、ベトナムの抗

酸化物の摂取量ならびにベトナムにおける遺伝子多型の問題に取り組み、同一年の宇都春美君は肥満とインスリン抵抗性の問題をノックアウトマウスを用いて検討し、修士課程一年の谷真理子君は生葉の抗酸化作用に取り組んでいます。その他にも中鎖脂肪酸や植物ステロールの動脈硬化抑制作用、食品と抗菌作用、野菜の抗酸化作用、アスタキサンチンなどカロテノイドの抗酸化作用、アーモンドやマヨネーズなどに含まれる脂肪の抗動脈硬化作用について、卒論生の田中美穂君、奥村美保君、白田美香君、佐々木美穂君と検討をすすめています。こうした広範囲にわたる研究は、一研究室では、限界のあることも事実です。そこで学外の東京大学薬学部、東京医科歯科大学医学部、東京慈恵会医科大学、昭和大学医学部、防衛医科大学、国立健康・栄養研究所、国立医薬品食品衛生研究所などと、あるいは企業の日清オイリオ、キュービィ、伊藤園、麒麟麦酒、明治製菓、ヘレナ研究所、田辺製薬、興和新薬などと幅広く提携しながら、研究を展開させています。

研究の成果は、当学会、専門誌へ発表する必要がありますが、当研究室では、ここ三年間で二〇を越える報告を内外の学会で行っており、専門誌への発表も二〇を越えています。

こうした食環境の機能面を重視した研究の展開が、日本におけるこの方面での拠点の一つとして認知されるよう当研究室では頑張っています。

(お問い合わせ) <http://carrot.skk.ocha.ac.jp/skk/>

## お茶の水女子大学 「名誉博士号」を授与

お茶の水女子大学では、名誉博士称号授与制度を制定し、最初の授与者に緒方貞子氏、ニユスライン・フォルハルト氏、柳澤桂子氏の三氏に決定しました。(前号に記載)



氏から御礼のお手紙を頂戴いたしましたので、皆様にご披露させていただきます。

「お茶の水女子大学名誉博士号をいただき、柳澤桂子お茶の水女子大学名誉博士

この度、お茶の水女子大学から名誉学位をいただくことになりました。私に下さったものでは、名誉学位のレベルが下がってしまいましたと、再三申し上げましたが、ついにはいただくことになってしまいました。第一回めの名誉学位の受賞者は緒方貞子氏です。皆様ご存知の通り、国際的に活躍しておられます。とても私が肩を並べられる方ではございません。第二回めの名誉学位を授与されましたニユスライン・フォルハルト博士と私は、おなじ分野の研究をいたしておりました。発生遺伝学という分野です。ホルトハルト博士は、シヨウジヨウバエという果物にたかる小さいハエが、楕円形の卵からどうしてハエの形になるのかという、最初のステップをみることな実験で示さ

れて、ノーベル医学生理学賞を受けられました。

私はマウスを使って、どうして丸いマウスの卵がネズミの形になるのかということを研究しておりました。マウスには突然変異が起こるとしつぽが短くなるTという遺伝子があります。私はT遺伝子が中胚葉という筋肉や骨になる組織への分化をきめる遺伝子であるということをも最初に数量的なデータとして示しました。

その頃、私は病気になる、病気は次第に進んで、実験を続けられない状態になっておりました。ところが、幸運なことに、ドイツとイギリスの若い研究者たちが、私の論文に触発されて、T遺伝子を長いDNAの中から取りだしてくれました。調べてみると、T遺伝子はしつぽのない人間にも、蛙にも、魚にもあることがわかりました。T遺伝子は背骨のある動物にだけあって、背骨の中を通っている脊索という組織をつくるのではないかともいわれましたが、さらに調べると、背骨のない貝などにもT遺伝子があることがわかりました。

私は、T遺伝子は動物の発生のときに、中胚葉をきめる非常に重要な遺伝子だと思っています。この遺伝子については、現在でも世界中で盛んに研究されて進展しています。

というわけで、私のしたことは、T遺伝子の重要性を示したことだけで、ホルトハルト博士とは比べものになりません。それでも私にとおっしゃってくださった学長先生はじめ諸先生方は、あるいは、私が当初の人生の目標に挫折しながらも、くじけずに再起したというところを見てくださったのかもしれないと思います。

けれども、この点に関しましては、周囲の

皆様の温かいご援助とたまたまの幸運に助けられてこうなつたという面がたいへん強いのです。

私が病のため研究者をやめて、一般向けの本を書き出した頃、その分野ではまったく無名でしたから、私の本を出版してくれる出版社はなかなか見つかりませんでした。出版社は有名な人たちの本ばかり出すのです。私は、出版されるほどの立派な原稿を一〇年間、ただただ書き続けました。一〇年を過ぎた頃に、幸運にも私の原稿に興味を示してくださいる編集者に巡り会えました。そして、その編集者が出版してくださった本が、日本エッセイスト・クラブ賞を受賞しました。するとようやくあちこちの出版社から声がかかってまいりました。私を育ててくださったのは、何人かの編集者の方々とたくさん読者のの方々です。これからも、お茶の水女子大学、コロンビア大学で教えていただいたことをもとに、「いのち」について語り続けたいと存じております。今回いただくことになりました名誉学位も、私を助けて支えてくださった大勢の方々とともにいただくことにさせていただきます。このような栄誉を母校から授けていただき、たいへんうれしく幸せに存じます。ほんとうにありがとうございます。

### 柳澤桂子氏プロフィール

昭十三年一月生／昭三五年三月お茶の水女子大学理学部卒／昭三八年五月コロンビア大学動物学大学院修了・PhD取得／昭三八〜四〇年慶應義塾大学医学部分子生物学教室助手／昭四六〜五八年三菱化成生命科学研究所副主任研究員／平五年講談社出版文化賞／平七年日本エッセイスト・クラブ賞／平十一年日本女性科学者の会功労受賞

## アフガニスタン女子教育支援と 五女子大学コンソーシアム

「五女子大学コンソーシアム」って何だろうと思われ方もいるでしょう。二〇〇二年四月にお茶大に、奈良女子大学、東京女子大学、日本女子大学、津田塾大学の学長が集い、アフガニスタン女子教育のための女性教員研修プログラムの共同で実施するためにコンソーシアムをつくることが協議され、五月十七日に協定は調印されました。それを受けて各



写真左側から、志村高子津田塾大学長、本田和子お茶の水女子大学長、浜島子東京女子大学長、丹羽穂子奈良女子大学長、後藤祥子日本女子大学長

大学2名からなる連絡協議会は、六月以来すでに四回の会合を開いて、アフガニスタンから教育分野の女性リーダーをお招きして女性教員の資質向上を図る研修の実施に向け活動しています。



壊れた校舎と校庭で学習するアフガニスタンの女子中学生

八月二四日から九月二日まで八名からなる事前調査団をアフガニスタンに派遣し、教育省、高等教育省、二年制の小中学校教員養成カレッジや四年制の小中高校教員養成を担っている教育大学を訪問し、研修実施

のための情報を収集してきました。また、カプールの三つの中学校では視察のみならず、顕微鏡を使った生物の授業や偏光板を使った「光は波」と題するデモンストラクション授業をやりました。夏の現地調査団報告会は、十月一六日に行われ、約九十名の参加がありました。

十一月下旬にはアフガン側から研修生の選抜や送り出しに関わる責任者七名の来日が決定し、シンポジウムが十二月四日の午後二時から本学講堂で開催される予定です。是非、参加してください。尚、来年一月にはいよいよ研修本番で約二〇名ほどの教員養成校の教官や校長クラスの女性がお茶大にやってきます。こうした事業のために各大学にはワーキンググループや学生ボランティアの組織があります。交流のチャンスを作りますので、あなたも是非フォーラムに参加して、アフガンの方と言葉を交わしてください。 (五女子大学コンソーシアム連絡協議会座長 箕浦康子)

### 大学見学会(オープンキャンパス)を開催

今年度も、昨年同様、平成一四年七月二〇日(海の日)に開催して、関東地区以外からも北は東北、南は九州の各地区から日中の気温が三〇度以上になった猛暑の中、昨年を上回る約一三〇〇名が参加し盛会に終わりました。まず、午前、午後と学部全体の説明を聞いた後、各学



見学者は、興味のある研究室を廻り、教育・研究内容や卒業後の就職先などについて質問していた。

科等に別れて模擬授業の体験、質疑応答や先輩による大学生活よろず相談等によりお茶大の雰囲気を感じるとともに、空き時間を利用して、学食体験等各種イベントにも参加するなど、大変好評であり、この大学に入りたいという意欲の増大につながったと思われまます。

今回2回目となる、本田和子学長との懇談会は、受付開始後すぐ定員(六〇名)となる盛況ぶりです。受験生には大変貴重な体験となり満足していただようです。また、今回企画として、休憩室や生協食堂に展示コーナーを設け、お茶の水女子大学の歴史や学校行事等をパネル写真により紹介をして、違った意味でのお茶大を感じ取っていただけたいと思います。



熱心に研究室の紹介に関き入る見学者

なお、今回の見学会でこんなこともありました。青森県八戸から終了間際の一六時過ぎに受付に来た親子なのですが、朝六時に家を出たのに、盛岡に行く途中の電車の事故で、バスによる代替輸送でいつ着くかわからないけれど、それでも見学会(舞踊教育学コースの体験授業)に行きたいとやってきました。我々スタッフ一同その気持ちに打たれ、舞踊教育学コースにお願いした結果、三〇分の体験授業をしていただけました。(本学の見学会の心温まる出来事です。)平成一五年度の大学見学会の内容については、未定ですが、暑い時期を避けて実施してほしいなどの意見もあります。今年度と同じ時期に予定をしています。

<http://www.aio.ac.jp/> / 入試課 [nyu@cc.aio.ac.jp](mailto:nyu@cc.aio.ac.jp)

## 研究室紹介

大学院人間文化研究科・比較社会文化学専攻  
助教授 天野 知香

### 「美術史」研究室というところ

本学の文教育学部のなかで、「哲学」「倫理」とともにひとくくりになった「美術史」というコースが、何をやるどころなのかを説明できる人は多くないだろう。かくいう「美術史」コースの人間でさえ、こころもとない。もともと学問の枠組みや定義云々は、それにかかわる各人の考え方や欲望の問題でもあるだろうから、一般的にそれの問題にすることにさして意味があるとも思えない。ただ、学内で道に迷わない程度にその看板の内容を理解していれば十分だろう。

とりあえず「言えるのは「美術史」では主にイメージを扱うということである。「美術」という言葉にこだわってはいけない。たしかに「美術史」で学ぶ学生の中には美術館に鎮座している「名作」を研究する者も多いが、広告のイメージを題材に卒論を書く学生もいる。私たちが日常的にさらされている広告のイメージが何をどのように伝えようとしており、どのように受け取られているかを考えることは、レンブラントの真作を見分けることやレオナルド・ダ・ヴィンチの作品を分析するのと同じように意味がある。さらに言えば「美術」という概念自体が何時どのように生まれ、どのように使われてきたかを調べることも意味が

あるし、「名作」を「称賛」することは社会的にどのような意味をもち、またどのように意味がないのかを問いたとしても構わない。

私たちの日常にイメージは欠かせないが、それはどのように使われ、どのように受け取られているのだろうか？ 私たちは小学校で読むことを学ぶが、イメージを見てその意味を読み取るやりかたは必ずしも学ばない。それにもかかわらず、イメージは文字と同じように私たちの周りにあふれ、私たちはそこからメッセージを受け取ったり、好悪を感じたり、あるいはそれによって何かを伝えたりしている。

したがって、おそまきながら私たちの周りに存在するイメージとその意味や機能、そしてそれをとりまく制度や概念を考える場所がこの研究室であると、とりあえずは言うことができるかもしれない。とはいえ、これが唯一の正解というわけでもない。

毎年この研究室に入ってくる学生ひとりひとりの関心や活動が「美術史」コースの内容を形作っている。彼女達の関心は「泰西名画」や仏教絵画から村上隆におよび、そのアプローチもさまざまである。人々との議論を可能にするための論証や歴史的な証拠を用意しさえすれば、研究室ではさまざまな問いが歓迎される。西洋絵画に女性の裸体がたくさん描かれるのはなぜか。伝統的に「巨匠」といわれる人に男性が多いのはなぜか？ 模様と絵はどが違うのか。宗教的なイメージはどのように「使われ」たのか？

「美術史」の人間にとって研究の対象と

なる「作品」がおかれる「美術館」は、足しげく通うおなじみの場所となるが、「美術館」の展示とはどのようなものか、それはどのような意味を持っているのか、さらには「美術館」とはどのような制度なのかを疑問に思うことも必要だろう。

従来の美術史はどちらかといえば絵を囲む額縁の内側が問題になっていたといえるかもしれない。しかし現在の私たちにとってはいわば額縁の内側も外側ともに考える対象になっている。イメージの問題はそれほどわたしたちの生きる毎日と結びついたものだからである。

### 天野知香助教授 プロフィール

専攻分野／西洋近代美術史、主な担当授業科目／西洋美術史特講義、美術史学演習（大学院および学部）、主な研究課題／一九世紀及び二〇世紀のフランス美術、特に一九世紀後半から二〇世紀初頭にかけてのフランス社会に於ける「芸術」をめぐる概念の位相と芸術運動を巡る言説の動態、制度の変化と作品研究、アンリ・マティス研究、所属学会等／美術史学会、日仏美術学会、イメージ&ジェンダー研究会、主な著書（著書）◆朝日美術館展「アンリ・マティス」(単著)朝日新聞(1997) ◆「西洋美術史ハンドブック」(共著)新書館(1997) ◆「美術とジェンダー」(共著)ブリュッケ(1997) ◆「女性の芸術—八九〇年代の二つの展覧会と芸術技術振興運動」『明治学院論叢』芸術学研究 5-1 24 (1996) ◆「一九一〇年代末から一九二〇年代前半のフランスにおける批評の文とマチスの芸術」『美術史研究年報第14号別冊』47-67 (2009) ◆「翻訳」◆テホラ・シルヴァーマン「アル・ヌーヴォー」青土社(2009) ◆「講演」第14回日仏会期がおくる文化講座「日本美術の西洋受容—マチスの受容—」(2009) ◆「フリダ・カストン美術館土曜講座「20世紀を開いた革命家たち、マチスとモダニズム」(2007)

受賞・表彰 第5回鹿島美術財団賞(一九九八年)

### コア・クラスター/ジェンダー系

#### コア・クラスター制度「企業・起業論」終わる

文教育学部教授・学長補佐 篠塚英子

本号創刊号に市古夏生副学長による「新しい教養教育の夜明け」コア・クラスター制度始まる」というお知らせがあったのを記憶ですか？今年「ジェンダー・コース」と「総合環境学コース」の二本が走っています。ひとつの学問をコア(核)にして、異なる専門領域から関連する授業科目を選択していくものです。

今回はジェンダーをコアにしたコースから、私が担当した「企業・起業論」のケースをご報告します。まず「企業・起業論」というと、皆さんはどんな学部をイメージしますか？きつと経済学部や経営学部が最初に浮かぶはずですが、でも本学は二つとも揃っていません。しかしジェンダーをコアにすることで視点を少しずらした「企業・企業論」を作ってみました。

この授業の狙いは三つです。第一は女性が経済的に自立する手段について考えるきっかけにする、第二に、雇われて働く場合と、業を起こす場合の働き方の違いを知り、第三にこうした観察の結果、獲得した知識によって現行制度の不備などを発見し、新たな制度構築の提言をするといった訓練に役立つこと、などです。

まず一クラス四五人の受講生を一五〇人のなかから選抜。導入部分は篠塚が現在の経済状況、労働市場、企業経営など概論を講義しその後、私のネットワークを使って起

業家六人を含む計一〇人の男女ゲスト・スピーカーによる連続講演会を実施しました。講師のうち三人は本学卒業生で民間企業管理職者と大学講師です。

学生は四〜五人づつ一〇班のグループにわけ、毎回のゲストスピーカーへの事前連絡、当日の講義準備、司会、討論、そして講義のテープ起こし、その講義録の冊子作成、という授業のすべてを担当しました。学生と篠塚との連絡はもっぱら携帯電話のメールが活用されました。OL時代にセクハラ被害をうけたのを契機に独力で起業家になった女性、六回もの転職を経て、外資系人事部長になった女性、まだ許可のなかった保育分野に人材派遣業を起し、常にフロンティアを歩き続けてきた女性起業家、OLの経験を活かして独自の市場調査会社を作った女性。どの話も毎回、学生にとって初めて聞くまったく未知の世界です。授業後は毎回気が高ぶって帰宅したという学生の声は誇張ではなさそうです。



左: コア・クラスター「企業・起業論」の授業を創る  
右: 『企業・起業論』の授業記録

毎回くりかえしました。

最後の授業は学生独自の企画による授業全体の反省と討論会の実施がハイライトで

### 編集後記

学外向け広報誌の第三号をお届けします。これまで国立大学は、学内の教育・研究にのみ、とかく専念しがちでした。

広報誌に関しても、本学では以前、主に学内の読者を想定した広報誌だけでした。しかし、独立法人化を控え、これまで以上に研究と教育に力を入れると同時に、それらの成果を、いかに社会に発信し、還元できるかが問われます。

本誌は、そのささやかな環です。本号の編集段階でお茶大がCOE(いわゆるトップ30)入りしたニュースが飛び込みました。ますます、本学の成果や魅力を心してアピールしたいと考えます。本誌は、試行錯誤しながら制作しています。ご意見やご感想を、ぜひお聞かせ下さい。(内田)

### 平成十四年度学年歴

- 四月九日 入学式
- 四月十五日 前学期授業開始
- 七月二〇日 大学見学会(オーブンキャンパス)
- 八月一日〜九月十六日 夏期休業
- 八月二十九日〜三〇日 大学院前期課程入学試験一次
- 九月十二日〜十三日 大学院後期課程入学試験
- 一〇月一日 後学期授業開始
- 十一月九日〜十一月一〇日 徹夜祭(学園祭)
- 十一月二十九日 創立記念日
- 十二月二日〜四日 冬期休業
- 二月六日〜八日 大学院前期課程入学試験二次
- 二月二十五日〜二十六日 学部入学試験二次試験前期日程
- 三月四日〜六日 大学院後期課程入学試験
- 三月二十四日 卒業式、修了式